



2026年3月12日

健康こども課

真鶴町チームが「チャレンジ！！オープンガバナンス（COG2025）」で
総合賞など三冠を受賞

東京大学公共政策大学院および一般社団法人オープンガバナンスネットワーク等が主催し、デジタル庁、内閣府等が後援する、地域課題解決コンテスト「チャレンジ！！オープンガバナンス2025（COG2025）」において、町内の大学生・大学院生とフェリス女学院大学の学生、町民や真鶴ファン等で結成した真鶴町チーム「Code for Manazuru」の提案「オープンナレッジ農園」が、総合賞（最優秀賞）、LINEヤフーサポーターズパートナー賞、オーディエンス賞・金賞（視聴者や会場参加者の投票第1位）の3賞を受賞しました。COG2025には、41の自治体が提示した課題に対して、全国から63のアイデアが集まり、真鶴町チームを含めた13の提案がファイナル審査に進みました。オーディエンス賞・金賞の受賞は、昨年につき二連覇となりました。詳細は下記をご覧ください。

◇最終審査プレゼンテーションの様子

Code for Manazuru メンバーによる note 記事 ※動画あり

https://note.com/sa_ya/n/n2f807ee8587c

◇評価について

オープンナレッジ農園では、特に下記を評価いただきました。

- ・町内在住の学生による農園継承・再生プロジェクトのストーリー性
- ・若者はじめ、民間企業や団体、起業家や行政等、多様な連携・実行体制とアイデア実装
- ・「農作業×農地から生まれる世界」に基づく多様なアクティビティ（農作業や農地改善、土中調査や青空教室等のリサーチ&学び、果実を活用した商品開発やマーケティング、農園BBQや蒸留ワークショップ等の交流会→ワクワクする活動を通して農園を再生していく仕掛け）
- ・活動で得られた知見を共有財産（オープンナレッジ）として公開していく試み

◇オープンナレッジ農園について

約70年前に開業した「佐野農園」では、柑橘類などを栽培しています。「軽トラックいっぱい積んで2千円」といった現実を悲しみ出荷を停止、現在は親族や親しい友人等、自家消費分の収穫が中心となっています。その中で、祖父から

農園を託された町内在住大学院生が、家族の協力を得て農園を地域に開放。真鶴チーム（真鶴町民＋真鶴ファン＋フェリス女学院大学の混成チーム）と農園再生プロジェクトを立ち上げました。廃棄果実を活用した商品開発や収穫等の農作業体験、さらには地質調査から真鶴の自然を知るデータ公開等を通じて、知識と体験を共有する“共創の場”として再生を目指します。活動から生まれる知見や感動・喜びを「ナレッジ」としてオープンに共有し、農園に集まる大人たちやワークショップによって、若者が町内の職業を知る機会をつくることにもつなげていきます。



応募内容確認書：

https://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2025/final/idea/017_idea.pdf

◇受賞報告会を開催します！

オープンナレッジ農園の活動を紹介する受賞報告会を、下記の通り開催します。取材を希望される場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

日時：3月28日（土）

場所：オープンナレッジ農園（佐野農園）

※詳細は別途お知らせします。

※同日、くらしかる真鶴にて「若者の居場所」お披露目会も開催予定です。

お問い合わせ先

健康こども課長 ト部 直也 電話：0465-68-1131 内線 2224



神奈川県西端の小さな半島・真鶴町。首都圏における地方の危機。

神奈川県唯一の過疎の町。人口約6,500人、美の基準に守られた、芦ノ湖と同サイズの小さな町が抱える、深刻な人口減少の現状。

希望する仕事がない 若者が故郷を離れる構造的な「壁」

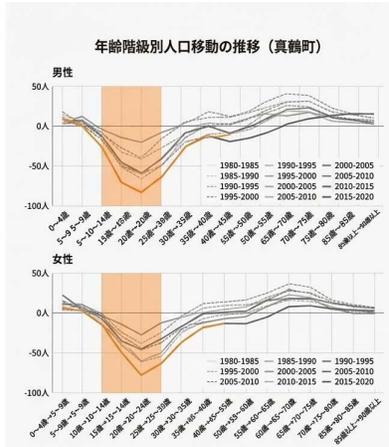
真鶴町の若者が直面する課題は、個人的なものではなく、日本の多くの地方が抱える構造的な人口流出問題と深く結びついています。

希望する仕事があれば地元で暮らしたかったと思う割合

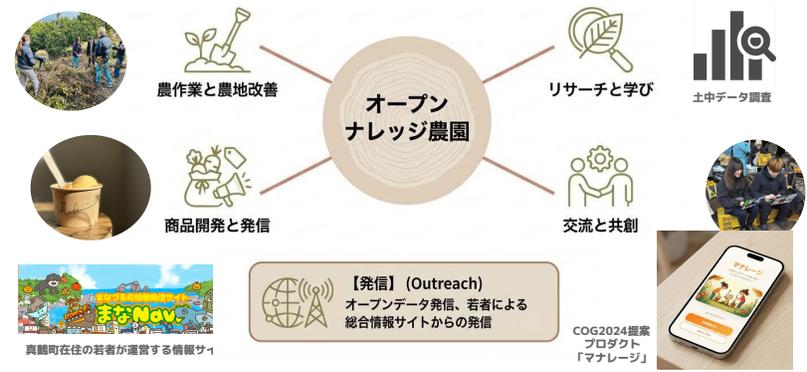
やりがいがあり、自分らしい仕事	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そうは思わない	まったく思わない
	23.9%	29.3%	16.7%	8.5%	7.7%

希望する職業	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そうは思わない	まったく思わない
	20.0%	28.5%	18.5%	8.4%	10.3%

6割以上が「希望の仕事があれば地元で暮らしたかった」と回答。



私たちの答え：オープンナレッジ農園 真鶴の「仕事・暮らし・自然」を知り、体験し、学ぶ場所。



課題の裏にある、大きな可能性

「仕事がない」という壁の一方で、若者たちは地方での暮らしに強いあこがれを抱き、社会とのつながりや自己実現の場を求めている。これは、私たちが答えるべき時代の要請です。

なぜ地方で暮らすことにごこれているのですか？

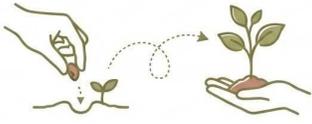
- 地方でのローライフに魅力を感じること
- 自然環境や風景が美しいこと
- 静かな暮らしが好きなこと
- 健康や生活の質を向上させたいこと
- 子育てや高齢者に優しいこと
- 地元の伝統文化や行事に参加したいこと
- 地元の物産や文化に魅力を感じること
- 地元で働く機会があること
- 自然環境に恵まれていること
- 地方での子育てや暮らしがしやすいこと
- 一人暮らしがしやすいこと
- その他

質問16：あなた自身と社会の関わりについて、教えてください。「私は、社会に貢献する活動に参加したい」(単一回答)

- 自分ができることをしたかったから 27.9%
- 自分の気持ちを表現したかったから 19.7%
- 友人・知人・家族に誘われたから 15.0%
- 課や名前を出さずに参加できたから 14.9%

私たちの学びの哲学：「オープンナレッジ」と「芋づる式の学び」。

活動で得た知見は、次の共創の種へ



ひとつの学びが、次の世界への扉を開く



農園から生まれる
オープンデータ・
オープンナレッジを
活かしたい研究者、
技術者、企業。

専門性と情熱が交差する 強力なエコシステム

若者と地域との
つながり創出による、
未来の担い手育成と
地域の活性化。



専門家・企業

専門家・企業、行政による伴走支援

協力企業・団体

AVINTON

SHIN4NY

H-tus

Code for Japan



町内の
他の農園



佐野農園 (Sano Farm)



Code for Ground

Code for Manazuru



オープンナレッジ
農園

地域活性化
企業人



商品開発
ブランディング
マーケティング

真鶴町

滞在拠点施設



土中データ測定・
オープンデータ化
支援

実現へのプロセス

アイデアの着想から具体的なアクションまで、
私たちは着実なステップでプロジェクトを推進します。

2025年9月

フェリス女学院大学の授業にて提案作成スタート

2025年12月

佐野農園感謝祭 / CCOG提案完成

2026年7月

草刈り等の農作業や
土中データ測定などの活動

2026年8月

中間振り返り

2025年11月

真鶴フィールドワーク、町民との交流

2026年2月～

農園再生プロジェクト組成、アクション開始

2026年10月～

摘み取り作業
商品開発プロジェクト

2026年12月

一年間の活動検証



「代々受け継いできた農園を残したい」という
一人の大学生の想いから、
オープンナレッジ農園は、若者と未来を繋ぎ、
真鶴の未来を耕します。

